

機関番号：14403  
 研究種目：基盤研究（B）  
 研究期間：2008～2010  
 課題番号：20330137  
 研究課題名（和文） アイデンティティ構築メカニズムの解明-時間的展望の視点による縦断研究-  
 研究課題名（英文） A research on mechanisms of identity construction: A longitudinal research in the viewpoint of time perspective.  
 研究代表者  
 白井 利明 (SHIRAI TOSHIAKI)  
 大阪教育大学・教育学部・教授  
 研究者番号：00171033

## 研究成果の概要（和文）：

アイデンティティとは自分が変化しても同一であると自覚しそれが社会の定義と合っていると感ずる感覚をいう。このようなアイデンティティがどのように構築されていくのかを時間的展望の視点から検討した。時間的展望とは過去・現在・未来に対する見解の総体をいう。青年期から成人期にかけての縦断研究の結果、未来指向がアイデンティティ形成を促すことを見いだした。今後も縦断研究を継続し中年期の検討も求められる。

## 研究成果の概要（英文）：

Identity is described as awareness of selfsameness and continuity of one's meaning, which he or she feels as defined by society. This study examines how we construct identity in terms of time perspective. Time perspective refers to integration of the past, the present, and the future. The longitudinal research showed that future orientation might cause identity development in transition into adulthood. Further longitudinal research in middle age should be taken.

## 交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	3,700,000	1,110,000	4,810,000
2009年度	2,100,000	630,000	2,730,000
2010年度	3,300,000	990,000	4,290,000
年度			
年度			
総計	9,100,000	2,730,000	11,830,000

研究分野：発達心理学

科研費の分科・細目：心理学・教育心理学

キーワード：アイデンティティ、時間的展望、縦断研究

## 1. 研究開始当初の背景

(1) 研究代表者は17年間にも及ぶ縦断研究をアイデンティティと時間的展望の分野で行ってきた。そのさらなる分析と調査の継続が求められていた。

(2) 研究代表者は変容確認法という新しい研究方法を開発した。これは縦断研究の新しい

手法を開くものとして期待されていた。

(3) 研究代表者は他の研究者との共同研究の中で8,000名を越える20代から30代の人たちのキャリア発達を時間的展望の視点から検討した。その結果、横断的なすじみちについての示唆が得られ、それを縦断的に検討することが求められていた。

## 2. 研究の目的

アイデンティティ構築のメカニズムを時間的展望という視点から解明する。

## 3. 研究の方法

(1) 縦断データの収集を継続した。それを使って以前に収集したデータと併せて分析した。

(2) 収集したデータから個人の物語を作成し個人にフィードバックすることにより、個人の気づきをもたらし、それを分析した。

## 4. 研究成果

(1) 縦断データを潜在成長曲線モデルによって分析した。その結果、20代は将来に目標を持ち満足を遅延していくことが傾倒も探求も高めていくことが示された。言い換えれば、20代は未来指向がアイデンティティ形成を促進することが明らかになった。アイデンティティは青年期に確立され、20代は安定期と言われ、アイデンティティの形成は背後に隠れると考えられてきたが、必ずしもそうではないことが示された。

(2) 収集したデータを分析し、個人ごとに変化を一目でわかるものを作成し、個人にフィードバックした。そこでの気づきを求めた結果、気づきは前向きに捉えられていることがわかった。ただし、その気づきの内容がアイデンティティの構成とどのように関連するのかは今後の研究課題とされた。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計2件)

白井利明 大学から社会への移行における時間的展望の再編成に関する追跡的研究 (VI) 大阪教育大学紀要 (第IV部門)、査読無、57(2)、2008、101-112.

白井利明 30歳の女性はなぜ自分を大人と思わないのか 大阪教育大学紀要 (第IV部門)、査読無、58(2)、2010、77-87.

[学会発表] (計5件)

白井利明・中村知靖・榎本博明・岡林秀樹・都筑学 青年期から成人期へのアイデンティティと時間的展望の縦断研究—方法論の検討— 日本心理学会第73回大会、2009年8月27日、立命館大学

Shirai, T., Nakamura, T., and Katsuma, K. Identity and time perspective in emerging adulthood: 11 years longitudinal study. Society for Research on Identity Formation 17th Annual Conference, 2010年3月10日、Philadelphia Marriott Downtown

白井利明・尾崎仁美・徳田治子・野村晴夫・佐藤達哉 自己の同一性はどのように作られるのか—人生構築理論の提唱— 日本心理学会第74回大会発表論文集、2010年9月21日、大阪大学

白井利明・勝眞久美子・中村知靖・都筑学・榎本博明 アイデンティティと時間的展望の縦断研究—質的分析と量的分析の統合— 日本教育心理学会第52回総会発表論文集、2010年8月28日、早稲田大学

Shirai, T., Nakamura, T., and Katsuma, K. Identity and time perspective in emerging adulthood: 12 years longitudinal study. Society for Research on Identity Formation 18th Annual Conference, 2011年2月4日、Plaza Resort and Spa Daytona

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

白井 利明 (SHIRAI TOSHIAKI)  
大阪教育大学・教育学部・教授  
研究者番号：00171033

### (2) 研究分担者

中村 知靖 (NAKAMURA TOMOYASU)  
九州大学・人間・環境学研究科(研究院)・  
准教授

研究者番号：30251614  
徳田 治子 (TOKUDA HARUKO)  
高千穂大学・人間科学部・准教授

研究者番号：40413596  
尾崎 仁美 (OZAKI HITOMI)  
京都ノートルダム女子大学・心理学部・  
准教授

研究者番号：30251614

勝眞 久美子 (KATSUMA KUMIKO)  
奈良産業大学・情報学部・非常勤講師  
研究者番号：80413475